

松戸中央公園・相模台公園のこれからを考えるアンケート調査1 結果概要（一般）

実施期間：2022.07.15～07.26

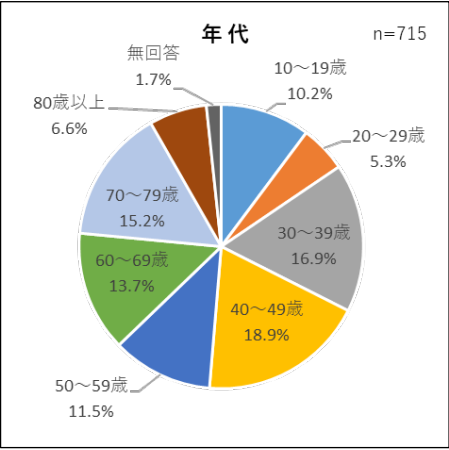
どちらの公園も現状は、散歩や通行目的が多い。幅広い利用者が滞留し、安全かつ快適に多様な使い方ができる公園が望まれている。

1. 調査対象と回答状況

- ①郵送：近隣住民無作為抽出（1,000 通）
- ②公園利用者：公園利用者に現地アンケート（平日休日 12 日間）

【回答状況】715件

郵送：352 件/1000 件（郵送：215 件/WEB：137 件）
現地：363 件（記入：343 件/WEB：20 件）



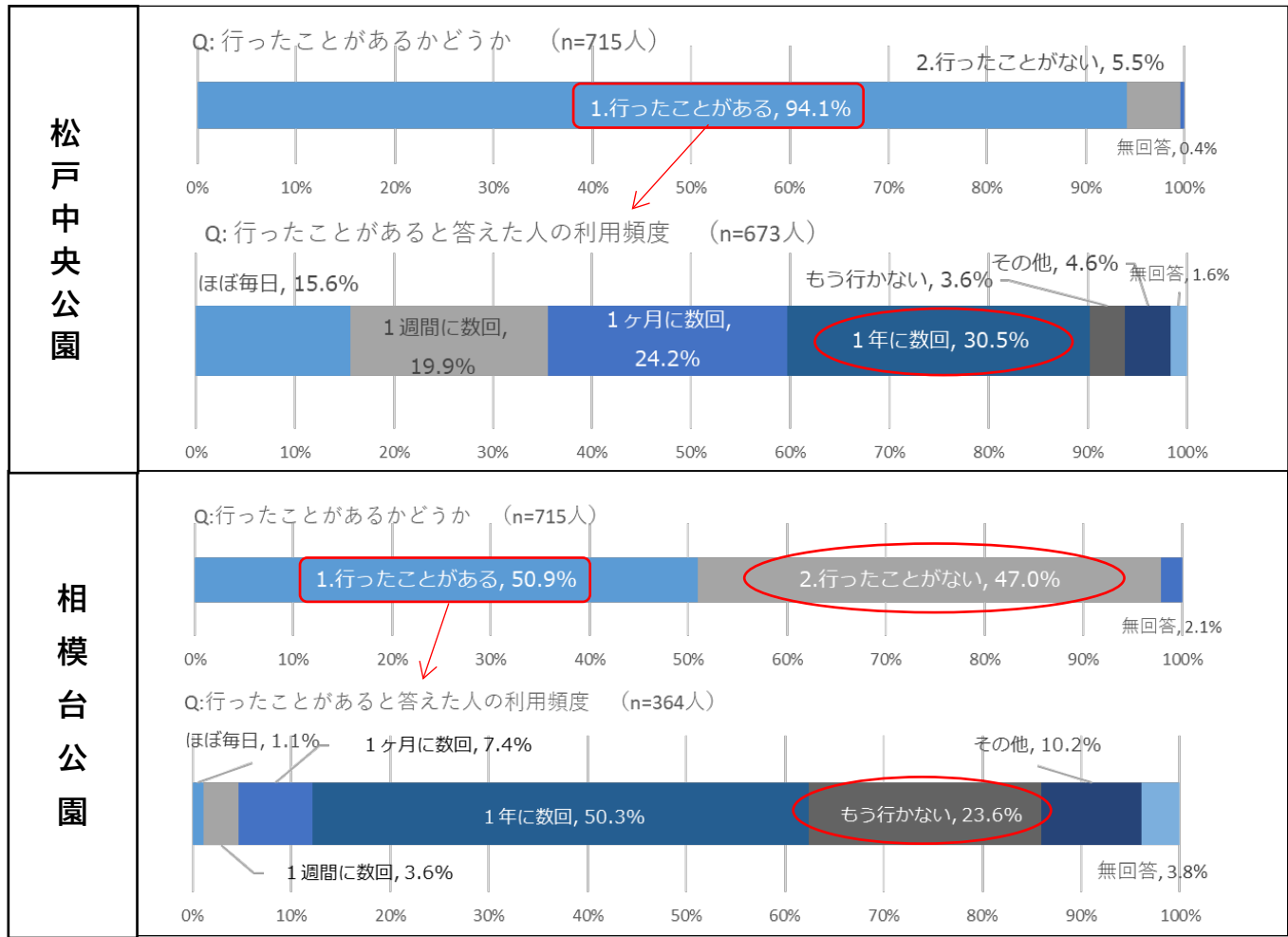
2. 回答者の基本属性

- 性別は男性が 43.2%、女性が 50.9% だった。
- 年代は、40 代が最も多く 18.9%、続いて 30 代が 16.9%、70 代が 15.2%、60 代が 13.7%、50 代が 11.5%、10 代が 10.2% という結果だった。

3. アンケート結果

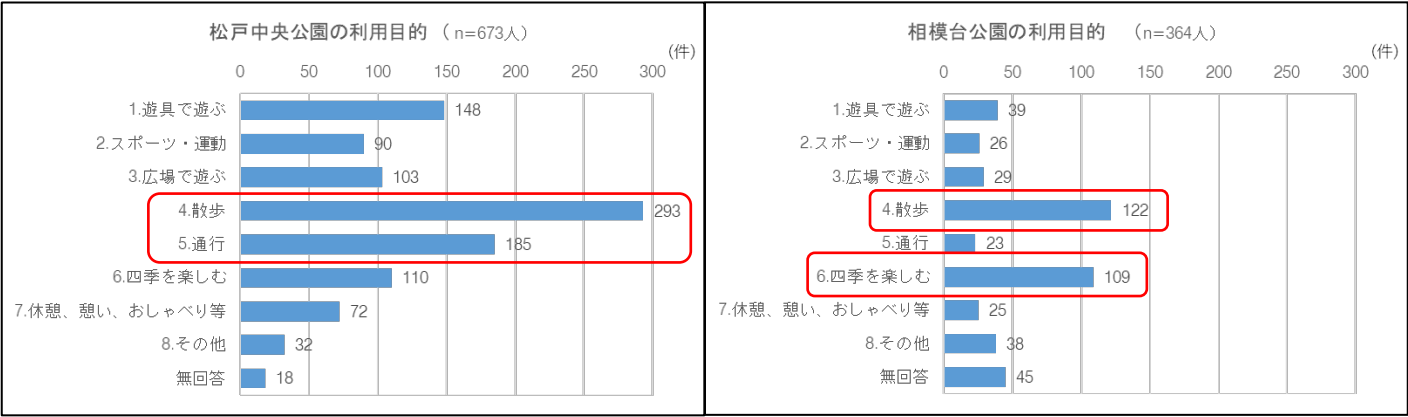
【利用頻度等】➡ 半数の人が相模台公園に行ったことがない。

- 松戸中央公園は約 94% が行ったことがあり、利用頻度は 1 年に数回（約 30%）が最も多かった。
- 相模台公園は行ったことがないが約 50% で、行ったことがある内の約 23% が「もう行かない」と回答。



【利用目的・理由】➡ 利用理由は自宅の近くだから、利用目的は散歩が多く、松戸中央公園は 3 割近くが通行目的。

- どちらの公園も「散歩」が最も多く（中央：約 43%、相模台：約 33%）、次いで多いのが、松戸中央公園は「通行」が約 27%、相模台公園は「四季を楽しむ」が約 30% だった。
- 理由は、どちらの公園も「自宅の近く」が最も多い。（どちらも 5 割程度）。



【気に入っているところ・改善点】➡ どちらの公園も花や草木が評価されている。

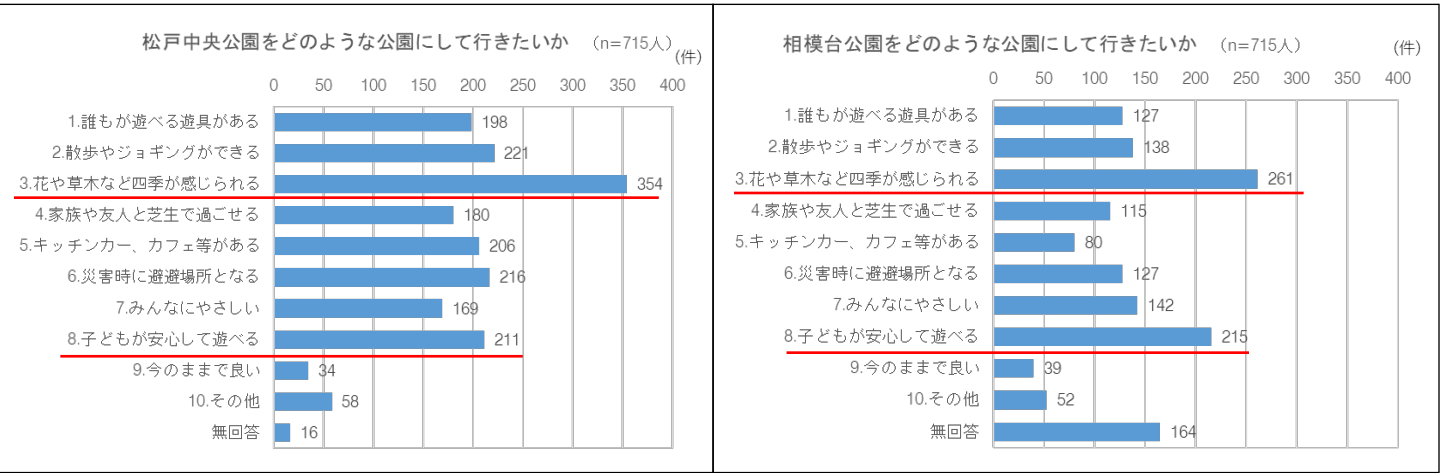
- 松戸中央公園は「花や草木が多い」が多く、次いで「広場」や「ベンチ」が評価されている。
- 相模台公園は、「桜」や「静かなこと」などが評価されている。

【改善点】➡ 松戸中央公園はトイレ等施設の改善、相模台公園は見通しやアクセスの悪さの改善が望まれている。

- 松戸中央公園は「トイレなどの施設が古い」が圧倒的に多く、相模台公園は「見通しの悪さ」「アクセスの悪さ」の改善を望む意見が多い。

【公園に望むこと】➡ どちらの公園も四季を感じられ、安全安心に、かつ幅広い利用が望まれている。

- どちらも「花や草木など四季を感じられる」が最も多い。
- 次いで松戸中央公園は「散歩」「避難場所」「子供が安心して遊べる」「キッチンカーやカフェ」「遊具」など多様な使い方を望んでおり、相模台公園では、「安心して遊べる」を望む声が多い。



【自由回答】

- 松戸中央公園は、緑の維持、遊具やスポーツ施設の増設のほか、キッチンカーやベンチの設置、トイレの改善、ゴミやタバコへの対策、水はけの改善等の意見が出された。
- 相模台公園は、アクセスの改善に関する意見が多く、併せて、「こわい、見通しが悪い」など防犯に関する意見が多かった。

松戸中央公園・相模台公園のこれからを考えるアンケート調査 1 結果概要（相模台小学校）
実施期間：2022.07

子どもは遊具に加えて広さを評価。誰もが安心して快適に遊べるようにするための具体的な改善点が出されている。

1. 調査対象と回答状況

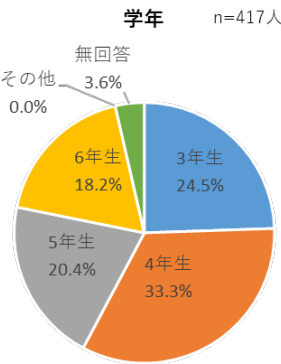
相模台小学校生徒 3年生～6年生（520人）を対象にアンケート用紙を学校にて配布。

【回答状況】

417人/520人（回収率：80.1%）

2. 回答者の基本属性

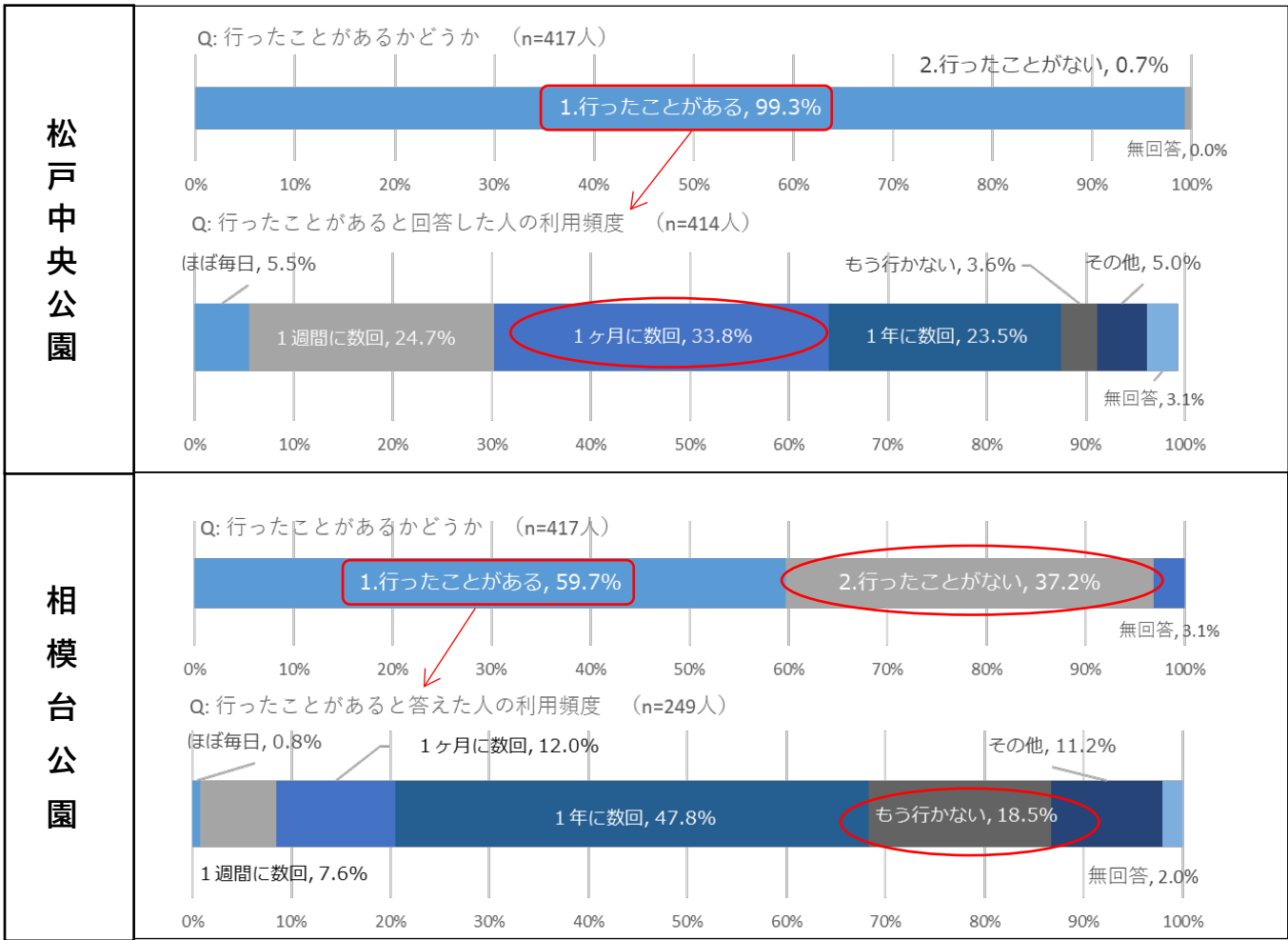
- 性別は男性が45.8%、女性が49.2%だった。（残りは無回答）
- 学年は、4年生が最も多く33.3%、続いて3年生が24.5%、5年生が20.4%、6年生が18.2%という結果だった。



3. アンケート結果

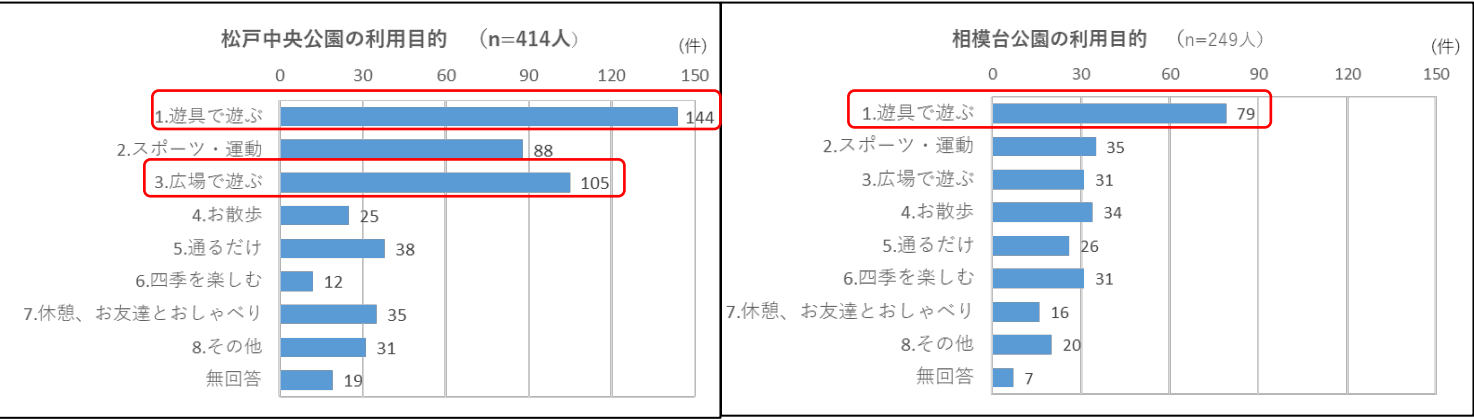
【利用頻度等】 ➡ **4割近い児童が相模台公園には行ったことがない。**

- 松戸中央公園は約99%が行ったことがあり、利用頻度は1か月に数回が最も多かった。（約34%）
- 相模台公園に行ったことがないは約38%で、行ったことがある内約19%が「もう行かない」と回答。



【利用目的・理由】 **どちらも目的は遊具で遊ぶだが、松戸中央公園は広場や広さも評価されている。**

- 目的は、どちらの公園も「遊具で遊ぶ」が最も多く（中央：約35%、相模台：約30%）、次いで、松戸中央公園は「広場で遊ぶ」「スポーツ・運動」が20%を超えている。
- 理由は、松戸中央公園は「広い」が最も多く（約47%）、次いで「広場」「家から近い」で、相模台公園は「家から近い」が最も多く（約25%）、その他として「桜がきれい、花見」という記述が多かった。



【好きなところ】 **松戸中央公園はスポーツ、広場・ベンチ、遊具を評価。相模台公園は花や草木を評価。**

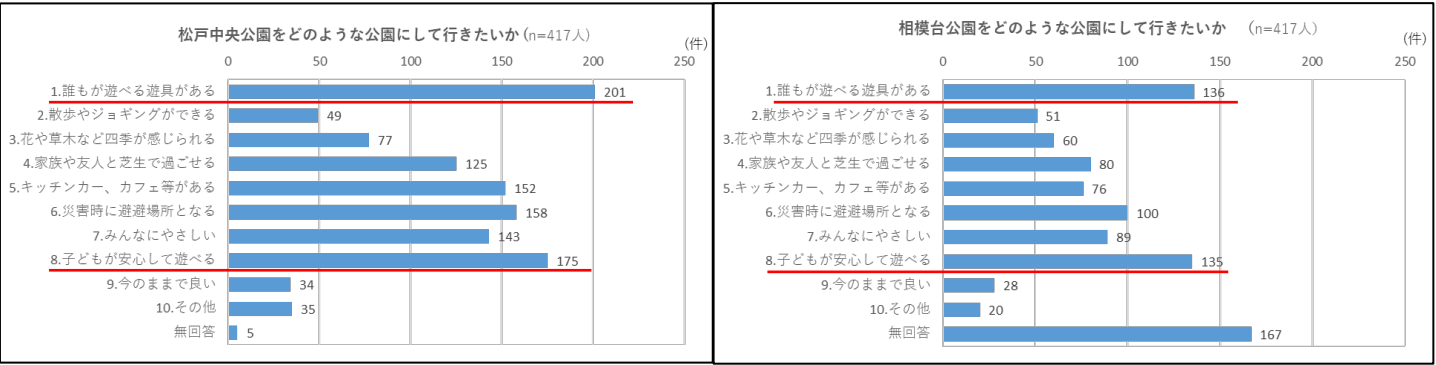
- 松戸中央公園は「スポーツ・運動」が多く、次いで「広場」や「ベンチ」、遊具が評価されている。
- 相模台公園は、「花や草木が多い」が多かった。

【改善点】 ➡ **松戸中央公園はトイレ等施設の古さが圧倒的に多く、相模台公園は暗くて怖い。総合学習の授業でも同意見。**

- 松戸中央公園は「トイレなどの施設が古い」が圧倒的に多く次いで「暗くて怖い」と続き、相模台公園は「暗くて怖い」が最も多く、「遊具が少ない」「段差が危ない」「トイレなどの施設が古い」と続いている。

【公園に望むこと】 ➡ **誰もが遊べる遊具があって、安心して遊べることを望んでいる。**

- 松戸中央公園は「誰もが遊べる遊具のある公園」が最も多く（約48%）、次いで「明るくみんなが安心して遊べる」（約42%）と続いている。
- 相模台公園も「誰もが遊べる遊具のある公園」「明るくみんなが安心して遊べる公園」が多かった。（どちらも約32%）



【自由回答】

- 松戸中央公園は、遊具の改善、増設のほか、虫、カラス、タバコ、ゴミなどへの対策、トイレの改善、段差の解消や駐輪場の整備等の意見があった。
- 相模台公園は、アクセスの改善に関する意見が多く、併せて、「こわい、見通しが悪い」など防犯的な視点に加え、階段の改善を望む声も多かった。

1. 調査対象と回答状況

- ①郵送：アンケート調査 1 と同様の近隣住民無作為抽出（1,000 通）
：市内全域の市民から無作為抽出（3,000 通）

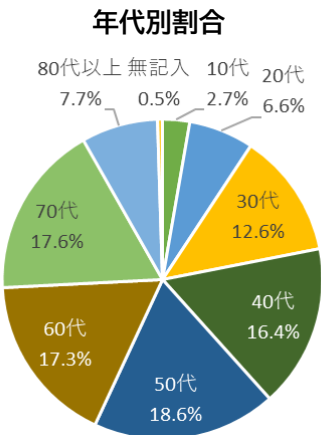
②公園利用者：公園利用者に現地アンケート（平日休日 12 日間）

【回答状況】1,205 件

郵送：1,093 件/4,000 件（郵送：824 件/WEB：269 件）
現地：112 件

2. 回答者の基本属性

- 性別は男性が 41.7%、女性が 56.6%だった。
- 年代は、50 代が最も多く 18.6%、続いて 70 代が 17.6%、60 代が 17.3%、40 代が 16.4%、30 代が 12.6%、80 代以上が 7.7%、20 代が 6.6%、10 代が 2.7%という結果だった。



3. アンケート結果分析

① 各案の単純集計結果

- 各案の単純集計結果のうち、平均点の高い項目（それぞれ案の「得意項目」）は下記の通り。

A 案 中心に大きな広場		B 案 豊かな緑の中に小さな広場		C 案 大きな広場+様々な機能・サービス	
大人数使用	2.21	みどり癒し	1.99	イベント	1.66
災害時	2.14	自然身近	1.98	複合施設併用	1.54
運動・レク	2.10	草木や花	1.95	災害時	1.53
イベント	2.07	子育て便利	1.63	子育て便利	1.41
子ども	1.69	少人数落ち着き	1.62	子ども	1.29
見通し防犯	1.64	子ども	1.45	みどり癒し	1.2
子育て便利	1.49	無目的滞在	1.37	大人数使用	1.18
みどり癒し	1.33	ユニバーサル	1.17	世代間交流	1.14
自然身近	1.26	生物ふれあい	1.16	自然身近	1.11

※単純集計の表中の数値は、回答(7 段階評価)を数値に置き換えた平均値を表す。

② 「自分にとって良い公園」「まちにとって良い公園」に対するプラスの影響(全体・重回帰分析)

自分にとって良い (全体)	
無目的滞在	0.24
少人数落ち着き	0.14
みどり癒し	0.14
世代間交流	0.11
見通し防犯	0.10
子ども	0.09
ユニバーサル	0.07
駅前賑わい	0.06
高齢者	0.06
運動・レク	0.05
イベント	0.05

⇒B 案
⇒B 案
⇒B 案
⇒C 案

まちにとって良い (全体)	
子育て便利	0.17
無目的滞在	0.15
みどり癒し	0.13
ユニバーサル	0.09
見通し防犯	0.09
駅前賑わい	0.07
災害時	0.07
イベント	0.05
草木や花	0.05
複合施設と併用	0.05
世代間交流	0.05
子ども	0.04
大人数使用	0.04

⇒B・C 案
⇒B 案
⇒B 案
⇒B 案
⇒A 案

B 案が一番プラスの影響の項目の点数が高い
⇒世代別のプラスの影響から各案が選ばれている理由を分析

③ 世代別の「自分にとって良い公園」に対するプラスの影響(世代別・自分・重回帰分析)

目的変数：自分にとって良い公園					
60代以上		30-50代		10-20代	
無目的滞在(B)	0.21	無目的滞在(B)	0.26	世代間交流(C)	0.25
みどり癒し(B)	0.21	子ども(A)	0.15	少人数落ち着き(B)	0.24
高齢者(B)	0.18	世代間交流(C)	0.13	運動・レク(A)	0.20
ユニバーサル(B)	0.14	少人数落ち着き(B)	0.12	みどり癒し(B)	0.17
少人数落ち着き(B)	0.13	見通し防犯(A)	0.11	無目的滞在(B)	0.15
見通し防犯(A)	0.07	みどり癒し(B)	0.10	イベント(C)	0.14

【特徴的だった点】
10～50 代⇒世代間交流

60 代以上は B 案が多く、50 代以下はばらつきがある。



B 案をベースに A 案 C 案の良さを取り入れるのが良い？

- B 案が支持される理由は、「無目的滞在」「みどり癒し」「高齢者」「少人数落ち着き」であるが、B が得意とする「自然身近」「草木や花」が好ましさの直接的な理由となっているわけではない。
- 自然や生物そのものではなく、緑による「癒し」や「落ち着き」が大切であり、その結果無目的に訪れやすいと考えられる。

④ 世代別の「まちにとって良い公園」に対するプラスの影響(世代別・まち・重回帰分析)

目的変数：まちにとって良い					
60代以上		30-50代		10-20代	
みどり癒し(B)	0.17	子育て便利(BC)	0.24	無目的滞在(B)	0.18
見通し防犯(A)	0.13	無目的滞在(B)	0.18	世代間交流(C)	0.10
ユニバーサル(B)	0.11	みどり癒し(B)	0.12	仕事場利用(-)	0.09
子育て便利(BC)	0.09	イベント(C)	0.10		
無目的滞在(B)	0.09	駅前賑わい(-)	0.08		
自然身近(B)	0.08	ユニバーサル(B)	0.08		
災害時(A)	0.07	災害時(A)	0.08		
複合施設と併用(C)	0.07	見通し防犯(A)	0.07		
高齢者(B)	0.06	子ども(A)	0.05		
駅前賑わい(-)	0.05	仕事場利用(-)	-0.04		

【特徴的だった点】
60 代以上⇒見通し防犯
10-20 代⇒世代間交流



各世代とも各案それぞれに良いところがあり、ダントツという案はない。

B 案をベースに A 案 C 案の良さを取り入れるのが良い？

重回帰分析の表中の数値は、偏回帰係数といい、「自分にとって良い公園」、「まちにとって良い公園」の評価をするときに、各々の項目がどのぐらいプラスの影響を及ぼしているかを表す数値。(有意水準α=5%で有意と認めれたものを掲載)。

- B 案が支持される理由は、「みどり癒し」「無目的滞在」に加えて「子育て便利」「ユニバーサル」であるが、B が得意とする「自然身近」「草木や花」が案の好ましさの直接的な理由となっているわけではない。
- 自然や生物そのものではなく、無目的に滞在できて、みどりに癒される、ユニバーサルで子育てに優しいという点が大事にされていると考えられる。

市民の「自分にとって」「まちにとって」良い公園の姿(アンケート総括)

【自分にとって良い公園】

- 誰もがふらっと立ち寄り、緑に癒やされる落ち着いた空間があること、多様な世代にとって過ごしやすく、交流できる場があること、運動やレクリエーションができる広い空間もあり、子どもも思う存分遊べる空間が共存することが望まれている。
- 特に若い世代で「世代間交流」を求める視点が明らかだったが、今回の 3 案にはその点が明確に評価できるものはなかった。今後の検討で大事に考えるべき。

【まちにとって良い公園】

- 上記に加え、子育て上の利便性、防犯やユニバーサルデザインが重視されるという傾向が見られた。

※本アンケートは、質問の作成及び回答の分析等を千葉大学大学院園芸学研究院 武田研究室の協力を得て行いました。